

【標津町】 校務DX計画

GIGAスクール構想にて整備されたMicrosoft Teamsを活用し教職員が情報共有をすることで、クラウドツールの便利さを実感し校務の効率化が進んでいる。

さらなるコミュニケーションの迅速化や活性化、校務の負担軽減を図るため、以下の校務DX計画を推進する予定である。

○「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に示されている、教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現する上で障害となる課題を解決する

○ クラウドツールの活用

教員と保護者間、教員と児童生徒間、学校内の連絡については、引き続きデジタル化を進め、効率化・業務負担の軽減を図る。

◆教員と保護者間

- ・ 児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡
⇒ コドモンの活用を継続する。
- ・ 業務時間外の保護者からの問い合わせや連絡事項
⇒ コドモン又は汎用クラウドツール(グループウェア)等を活用する。

◆教員と児童生徒間

- ・ 児童生徒への各種連絡
⇒ 汎用クラウドツール(オンラインストレージ等)を活用し、
時間割、テスト範囲等の共有をデジタル化する
- ・ 宿題(学期中、長期休暇中)の実施・採点
⇒ デジタルドリル教材Qubena等の活用を継続する。

◆学校内の連絡

- ・ 職員会議
⇒ クラウド上で資料を配布・保存する
⇒ 汎用クラウドツール(グループウェア)等で検討事項を事前に情報共有し、
あらかじめ意見を求める
- ・ 職員間の情報共有
⇒ 汎用クラウドツール(チャット、グループウェア)等を用いる

○ FAXでのやり取り・押印の見直し

一部でまだ保護者・外部とのやりとりで、FAX使用や押印・署名が必要な書類がある。特別な事情がある場合を除き、FAX・押印の原則廃止に向けて、各種関係機関及び学校と関わりのある事業者に対して、教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行う。

○ 校務系ネットワーク・システム等の現状分析や、望ましい校務の在り方に関する検討を実施

校務システムの更改のタイミングにおいてスムーズに次世代の校務システムへと移行できるよう、校務系ネットワーク・システム等の現状分析や、望ましい校務の在り方に関する調査検討を実施する。